

**カバークロップ(レンゲ)を活用して
地球に優しい米作りを実践しよう！**



冬の間、「レンゲ」や「ヘアリーベッチ」などの「カバークロップ」を栽培し、翌年春にすき込むことで、土中へ炭素の貯留ができ、地球温暖化防止に効果があります。

「カバークロップ」を活用して、環境こだわり米を栽培すると、「環境保全型農業直接支払交付金」の支援の対象となります。

カバークロップの利用にあたって

「カバークロップ」をすき込むと、跡作の水稻において、元肥・追肥が必要無くなり、肥料が節減できます。

ただし、「カバークロップ」の生育量(すき込み量)が多いと、窒素過多になって稲が倒伏したり、いもち病が発生しやすくなるので注意が必要です。逆に、生育量が少ないと肥料効果が少なく、減収する場合があります。

県内では、「カバークロップ」を活用して「環境こだわり米」を栽培し、ブランド米として有利販売につなげている事例もあります。

ほ場準備

- ・早めに排水溝を切り、水尻につなげて、乾田化に努めます。

は種・覆土

10月上旬～11月中旬

- ・は種および覆土作業は、必ずほ場が乾いている時に行います。
- ・10アール当たり2～4kg 播種します(遅まきは多めに)。
- ・は種後にトラクタ等で軽く覆土します。



すき込み

4月中旬頃

- ・「レンゲ」の開花が全体の4割程度になった時が、すき込みの適期です。
- ・「レンゲ」の生育が良い場合は、早めにすき込みます。
- ・トラクタの速度を低速にし、丁寧な耕うんをおこないます。

「レンゲ」すき込み作業

ロータリの回転を遅くして、ゆっくりと、浅めにすき込みます。

レンゲ跡水稻栽培の注意点

入水：「レンゲ」のすき込みから10日間程度空ける。
(すき込み量が多い場合は長く空ける。)

田植え：入水から1週間以上空け、60～70株で植付ける。

元肥・追肥：原則施用しない。

ガス発生抑制：ガス湧きがみられる場合は、早めに軽く干す。

中干し：目標の茎数が確保できたら、2週間以上行う。

穂肥：葉色を見て判断する。

「環境こだわり米」の栽培には、県の基準に基づき、農薬・化学肥料の低減と、農業濁水の防止対策等の環境配慮技術を実践する必要があります。

初めてカバークロープに取り組まれる場合には、管轄の農業農村振興事務所農産普及課までご相談ください。